



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数
配布

令和6年(2024)9月26日号

校長 狩野 洋光

テレビ番組の収録 9/20 ～ 元気いっぱい良元っ子

5年生と6年生が、テレビ番組の収録に参加しました。5年生の先生が、報道番組をテーマに授業づくりをしていたところ、テレビ局の方が、テレビ番組を作るようすを間近で見るのできる機会をつくってくださいました。

収録内容は、小島よしおさんと小学生がリレーで勝負をするというものでした。また、体育館では、キッズコーディネーションントレーナーの資格をお持ちの小島さんから、楽しい体操を教えていただきました。(朝日放送「newsおかり」カテキョのピーヤ 10/4 放送予定です)



良元っ子の素直な反応に、カメラマンさんもニコニコ笑顔でした。

リレーの勝負は子どもたちの勝利でした。最後にゴールインした小島さんは、息を切らせながら、「勝負が終わったらノーサイドピーヤ」と話されました。なんだかいい言葉だなと心に止めておきました。すると、小島さんからいただいた本の中に・・・。

【小島よしおのボクといっしょに考えよう】

弱いからこそ強気で前向きな言葉を自分に向かって投げかけていることが多いです。「そんなの関係ねえ」「ダイジョブダイジョブ」「前へ前へ前へ」というギャグは、まさにそんな言葉たちです。

【10歳から学ぶ植物の生きる知恵 最強無敵の雑草たち】

「雑草」という歌の2番に、「^{くら}比べずにいこう」という歌詞を入れたんですが、これは、ぼくのギャグ「ピーヤ」の心です。ピーヤは、漢字で書くと「^{びーや}比^ひ止^{かく}=^や比較を止める」です。

「比止=比較を止める」 小島さんのギャグの「ピーヤ」は、誰かと比べることを止めると、自分らしく生きていけますよというメッセージでした。

「幸せ」の4つの因子（幸福を感じさせるもの）に「ありのままに」というものがあります。「ピーヤ」は「ありのままに」生きるためのヒントになりそうです。

2. 前野隆司教授の「幸せの4因子」

慶応義塾大学の前野教授は、研究結果から「幸せは次の4つの因子を使うことでコントロールできる」と説明しています。

・やってみよう！（自己実現と成長の因子）
・ありがとう！（つながりと感謝の因子）
・なんとかなる！（前向きと楽観の因子）
・ありのままに！（独立と自分らしさの因子）

ふだんから意識したい言葉ですね！

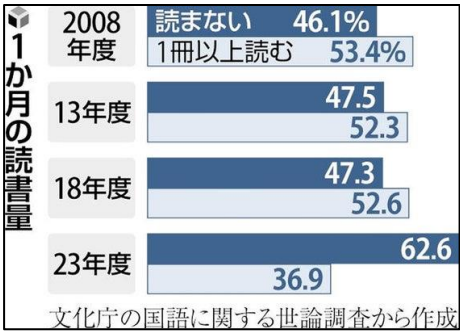
2023.9.22 号の良元通信より

「みんなにとって良いことをみんなが元気になることを」は、ウェルビーイングを表現しています。「ピーヤの心」を大切にしたいものですね。

本「読まない」急増6割

文化庁の「国語に関する世論調査」の結果によると、「1か月に読む本の冊数」は、電子書籍も含めて「読まない」が過去最多の63%だったそうです。ここでいう本は、マンガや雑誌を除きます。

（右のグラフは読売新聞 9/18 の記事からです）



国語世論調査 読書習慣の喪失は危機的だ（読売新聞 社説より 2024.9.18）

「読書離れ」が急速に進んでいることを示す極めて深刻な数字である。スマートフォンに多くの時間を割く毎日でいいのか。社会全体で考えねばならない時期に来ている。（中略）

本を読むことは、新しい知識を得るだけでなく、登場人物に感情移入して喜怒哀楽を共にしたり、深く考えて内省したりすることで、人格形成にも大きな影響を及ぼす。一冊との出会いが、その後の人生を左右することもある。

本は読まなくても、SNSの投稿やインターネット記事は毎日読んでいる人が75%に上る。だが、SNSの刺激的な短文は、瞬間的な怒りの感情などに結びつきやすい。デジタルは紙に比べて、記憶に残りにくいと言われる。

腰を据えて本と向き合い、じっくり考え、冷静に判断する。そうした時間を大事にしたい。（後略）

先日、お知らせしました通り、全国的に国語力の低下が見られます。スマホでネットニュースや動画を見ていると、次から次へと情報が流れていきます。時間の経過に驚くこともあります。現代に生きる我々は、スマホの誘惑と戦う日々なのかもしれません。

お家でも、スマホをさわらない時間をつくり、ご家族で本に親しむ時間を作っていただければと思います。